



木材需要の拡大

- **主要な需要先である住宅分野** ⇒ 少子化等の影響を受け、今後、**新設住宅着工戸数は大幅に減少** すると予測
- **新たな需要先を開拓** ⇒ これまで木材があまり使われてこなかった **非住宅建築物の木造化・木質化** を促進することが必要

木材利用に関する社会情勢の変化

パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略 (R1.6.11閣議決定抜粋)
・低層住宅や中層建築物について木材利用の推進に必要な技術の開発及び普及に取り組みつつ、**都市の高層建築物等**についても、**更なる木材利用の拡大が図られるようイノベーションを創出**する民間企業を中心としたSDGs目標達成に向けた取組の広がり

「2050年までに温室効果ガス実質ゼロ」を宣言 (R2.10.26)
・菅首相が成長戦略の柱に「経済と環境の好循環」を掲げ、2050年までに**温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、脱炭素社会の実現**を目指すことを宣言

脱炭素社会の実現に向けたアプローチ

脱炭素社会の実現に向け
木材が果たすべき役割

- ・ 建築物への**炭素の固定**
- ・ 生産・廃棄時の**炭素発生抑制**

非住宅建築物の
木造化・木質化の拡大が重要

非住宅木造建築物の構造計算に対応できる **J A S 機械等級区分構造材**の**供給拡大**が必要

県内JAS製材品供給体制の強化

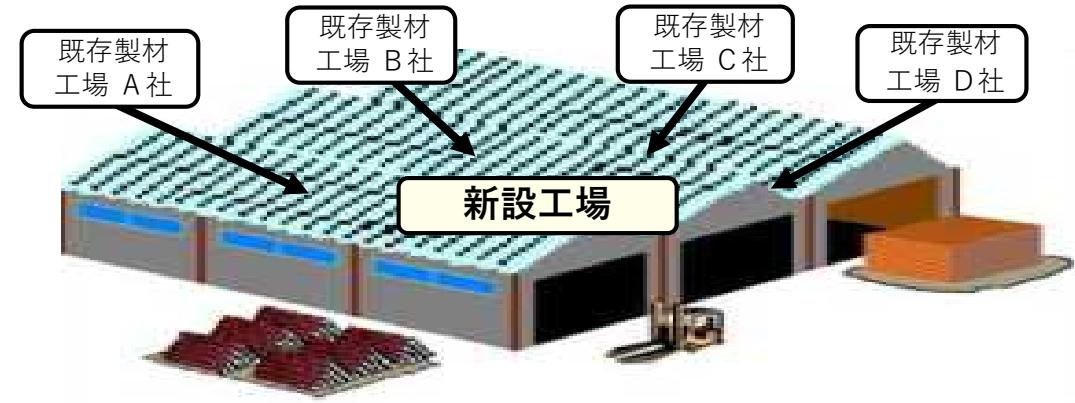
◆大径材に対応可能な **J A S 製品が生産できる工場**の新設

○施設設備内容

- ・ 大径材に対応可能なコンピューター制御による製材設備など最新の製材機械、木材皮剥ぎ機械、木屑炊きボイラー、木材乾燥機 (7台)、グレーディング設備及び作業用建屋 (4棟) を整備



原木生産量
〔 40,000 m3 〕



〔 製品出荷全体量 20,800 m3 〕



J A S 製品の出荷目標
→ 14,500 m3
(うち機械等級区分: 約12千m3)

●今後のスケジュール (予定)

用地造成
【R3年3月末完了】

計画書提出【4月】

事業着手【5月】

竣工【R4年3月】